

平成28年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

(参 考)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成27年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成27年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
第1節 学校教育の充実				
1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進				
1-1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
1-2		キャリア教育の推進	b	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営	b	学校教育課
8	教育環境の整備促進	学校施設の耐震化・長寿命化	a	学校教育課
9		学校備品整備・情報教育	b	学校教育課
1-2: 高校教育・大学教育との連携				
10-1	高等学校支援	高等学校振興	b	学校教育課
10-2		私立高等学校振興	b	学校教育課
11	大学との連携推進	信州大学・東京藝術大学との連携	b	学校教育課
1-3: 心の教育及び支援体制の充実				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	b	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		子どもと親の相談員配置	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー配置	b	学校教育課
第2節 生涯学習・芸術文化の振興				
2-1: 生涯学習の振興				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	b	文化振興課
18		桜大学	a	生涯学習課
19-1		長谷生涯学習講演会	a	生涯学習課
19-2		親孝行の讃歌事業	a	生涯学習課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設(施設管理)	a	生涯学習課
22		公民館共同事業	b	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	文化振興課
25		図書館イベント	b	文化振興課
26		図書館分館	b	文化振興課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	文化振興課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課

2-2: 青少年健全育成と家庭教育の充実				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		子ども週末活動の支援	b	生涯学習課
32		少年補導委員会・少年補導センター	b	生涯学習課
33		子ども会・育成会	b	生涯学習課
34		成人式	b	生涯学習課
2-3: 文化の振興				
35-1	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35-2		い〜な音楽祭	b	生涯学習課
36		市民音楽祭	b	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	生涯学習課
39		伊那能	b	生涯学習課
40	博物館などの整備・活用	創造館	a	文化振興課
41		高遠町歴史博物館	b	文化振興課
42		信州高遠美術館	b	文化振興課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1: 文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	c	生涯学習課
44		民俗資料館	b	文化振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1: 豊かなスポーツライフの実現				
47	スポーツライフの実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
48		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
49		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
50		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
51		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

第1節 学校教育の充実

1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

(1) 学校教育の充実

事務事業	No.1-1	総合的な学習	H27年度決算額	5,091千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切にした伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学习」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	平成27年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育(やぎ・羊他)、農作物栽培、竹細工、演劇、調理など	
		伊那東	稲・野菜栽培、伊那まつり踊り練習と参加、保育園等との交流など	
		伊那北	稲・野菜栽培、高齢者との交流、里山自然パーク体験、生態調査など	
		伊那西	野鳥観察、陶芸、酪農体験、野菜・シイタケ栽培、調理実習など	
		富県	稲・野菜栽培、醤油・豆腐作り、林業学習、全国植樹祭活動など	
		新山	地域学習、シバヤギ飼育、白毛餅・野菜栽培、新山まつり参加など	
		美篤	鶏・うさぎ飼育、稲(合鴨農法)・野菜栽培・調理、保育園交流など	
		手良	稲・野菜栽培、収穫物調理、味噌造り・販売、ふるさとCMなど	
		東春近	老健交流、稲・野菜栽培、みそ作り、老松場古墳公園づくりなど	
		西箕輪	稲、羽広かぶ栽培、調理・販売、老健施設・養護学校との交流など	
		西春近北	稲、小麦、野菜栽培、小麦製粉、和太鼓演奏、西春近再発見など	
		西春近南	全校飯盒炊爨、野菜栽培、地域学習、石器学習、土器づくりなど	
		高遠	稲・小麦・野菜栽培、竹やぶ学習、高遠小まんじゅうの販売など	
	高遠北	そば、野菜栽培、高遠そば作り、養護学校との交流、音楽劇など		
	長谷	アヒル農法、サンハート交流、孝行猿演劇、ふるさと祭出店など		
	中学校	伊那	職場体験学習、進路学習、伊那養護学校との交流、農業体験など	
		東部	農業体験、動画制作、伊那市の学習、地域食材学習、進路学習など	
		西箕輪	福祉交流、保育園との交流、ふるさとCM、ロボコンに挑戦など	
春富		農業体験、職場体験、進路学習、個人テーマ追究学習など		
高遠		森林学習、キャリア教育、観桜期プロジェクト、アセアン交流など		
長谷	地域の自然・地理・歴史・文化探訪、福祉交流、職業学習など			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学习」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p>【方向性】意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業に取り組み、地域に開かれた学校づくりを推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.1-2	キャリア教育の推進	H27年度決算額	2,037千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○キャリア教育産学官交流会、「夢大学」の開催			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・実施生徒数 874人 平均実施日数 3.6日 ・受入事業所数 192か所 (H25:192か所、H26:190か所) ○上伊那地域の産学官の交流や意見交換を通じて、今後のキャリア教育プログラムの充実、次世代育成活動の推進を図るために、キャリア教育産学官交流会を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 161人 (H26:88人) ○次世代を担う若者が郷土を知り、郷土に対する思いを深める機会として、「夢大学」を開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加者 84人 (H26:127人 (3回開催)) 			
事業の課題及び方向性	【課題】 職場体験学習の実施に係る事務手続き等の流れは定着してきましたが、生徒・学校と受入事業所との目的、理念の共有をさらに図っていく必要があります。 【方向性】 事前事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるといふ伊那市キャリア教育憲章のビジョンを関係者間で共有する取り組みを推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との連携を図る必要があります。			
自己評価	b			



放課後学力向上支援事業から (伊那中学校)



キャリア教育 (夢大学)

事務事業	No.2	学力向上	H27年度決算額	3,505千円
事業の目的	<p>自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導を行います。</p> <p>また、中学校の放課後行われる自発的な学習活動を支援します。</p>			
事業内容	<p>○標準学力検査（NRT）の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学4年生（634人）算数・小学5年生（631人）国語、算数、 ・中学2年生（652人）国語、数学、英語 <p>○学力検査結果の分析と授業改善</p> <p>○中学生の放課後学習支援事業の実施</p> <p>○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施</p>			
達成状況	<p>○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて12年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。</p> <p>○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力検査検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」（58人参加）を開催し、先進事例の発表と情報交換を行いました。</p> <p>○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援をしました。 受講生徒数 518人（H25:491人、H26:464人） 支援員数 50人（H25:49人、H26:51人）</p> <p>○全小学校の1年生にMIM(多層指導モデル)の導入をしました。また、読み書き・漢字学習法についての研修を実施し、伊那北小学校の取り組みを全校に拡げました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】平成27年度に市が実施した標準学力検査の偏差値では、小学校4年生の算数で全国平均を下回りました。5年生の国語、算数はほぼ全国平均並み。中学校では、国語、数学、英語ともほぼ全国平均並みとなりました。なお、中学校では、いずれの科目でも男子の偏差値が女子を下回っており若干の課題が見られるものの、全国標準の範囲にあるといえます。</p> <p>【方向性】学力検査などの分析を、児童生徒一人ひとりの学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れたり、授業をもっと良くする3観点を特に意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。</p> <p>また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」、「ノーテレビ・ノーゲーム」などの定着を図るとともに、家庭学習、ドリル学習等の充実を図ります。また、学力向上支援ボランティアの募集を行い、学力向上支援事業に取り組みます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H27 年度決算額	0 千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな連絡が図られました。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「発育発達支援票」を作成し、幼・保・小・中の情報共有を図っています。</p> <p>○一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流、中学校教職員の小学校での出前授業等、入学、進学への期待感を育みました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】小1プロブレム、中一ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員間の相互交流などを通じ心的距離の縮小を図ります。 ・伊那市版「幼保小連携プログラム」の内容について、教職員、保育士が理解を深める合同研修会を実施するとともに、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。 			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H27 年度決算額	41, 233 千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○図書館司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校行っています。</p> <p>○全校に配置した学校図書館司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>【参考】 図書館の本の1人当たり平均貸出冊数</p> <p>小学校 112 冊（H24 100.3 H25 105.3 H26 110）冊</p> <p>中学校 35 冊（H24 24.9 H25 22.6 H26 32）冊</p> <p>児童生徒1人当たり蔵書数 37.9 冊（H24 37.3 H25 37.2 H26 38）冊</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。</p> <p>【方向性】 引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える図書館司書を配置します。</p> <p>読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。また、図書館システム導入に向けて研究を行います。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.5	特別支援教育	H27年度決算額	44,881千円																																		
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。																																					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置 ○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○ 「ことばの教室（伊那小学校内）」「まなびの教室（伊那北小学校内）」の設置、運営 ○ 特別支援教育就学奨励費の支給 																																					
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。 <p>【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">支援員数 内()講師数</th> </tr> <tr> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> <th>生徒数</th> <th>クラス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成24年度</td> <td>152</td> <td>33</td> <td>73</td> <td>15</td> <td>28(1)</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>161</td> <td>34</td> <td>75</td> <td>15</td> <td>26(1)</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>185</td> <td>40</td> <td>67</td> <td>15</td> <td>25(1)</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>213</td> <td>40</td> <td>75</td> <td>17</td> <td>28(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">特別支援教育就学奨励費の支給 187人 (H24:130人、H25:150人、H26:159人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒62名) 					小学校		中学校		支援員数 内()講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	平成24年度	152	33	73	15	28(1)	平成25年度	161	34	75	15	26(1)	平成26年度	185	40	67	15	25(1)	平成27年度	213	40	75	17	28(1)
	小学校		中学校			支援員数 内()講師数																																
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																		
平成24年度	152	33	73	15	28(1)																																	
平成25年度	161	34	75	15	26(1)																																	
平成26年度	185	40	67	15	25(1)																																	
平成27年度	213	40	75	17	28(1)																																	
事業の課題及び方向性	<p>【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加するとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級において学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p>【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に応える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。</p> <p>また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。</p>																																					
自己評価	b																																					

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H27年度決算額	4,482千円
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語教室の設置、運営（伊那東小、伊那北小、東部中） ○ 外国語児童生徒支援相談員の設置（伊那東小、伊那北小、東部中） <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○ 発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置（伊那東小） 			

達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。				
	【参考】外国籍児童 生徒数		伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校
		平成24年度	27	23	20
		平成25年度	30	27	20
		平成26年度	32	26	23
平成27年度	33	29	29		
その他 小学校5校12人、中学校4校13人					
事業の課題 及び方向性	【課題】 障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。 【方向性】 日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。				
自己評価	b				

事務事業	No.7	給食運営	H27年度決算額	233,764千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の削減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成27年度県内産食材利用率 約44.4%) 【参考】 給食提供数 1,330,361食 (H25:1,362,986、H26:1,352,141) 給食技師数66人 (H25:73、H26:71人) 給食1食あたりの経費 176円 (H25:194円、H26:188円)			
事業の課題及び方向性	【課題】 子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】 各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達など効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。			
自己評価	b			



ミニトマトの収穫



給食の様子

(2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の耐震化・長寿命化	H27年度決算額	252,255千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の補修等整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○補強工事等 構造部材（建物の主要な柱・壁）の耐震化についてはH26年度で全校終了し、H27より各校体育館の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めていきます。</p> <p>○補修工事等</p>			
達成状況	<p>○耐震補強・トイレ改修工事等</p> <p>(1) 補強・改築工事の実施 高遠小学校体育館非構造部材耐震化・屋根改修工事 伊那中学校第1,2体育館非構造部材耐震化・屋根改修工事 東部中学校第1,2体育館・東校舎非構造部材耐震化・屋根改修工事 ※全校小中学校体育館非構造耐震化率H27末：23.8%</p> <p>(2) トイレ改修工事等の実施 高遠中学校（管理教室棟・体育館 計5箇所）</p> <p>○ 補修工事等</p> <p>(1) 伊那小学校高学年プール配管改修 (2) 伊那小学校太陽光発電設備工事 (3) 西箕輪小学校体育館屋根改修工事 (4) 新山小学校管理教室改修工事</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 構造部材の耐震化は平成26年度末で市内全校が完了しましたが、非構造部材の耐震化はほとんどの学校が未着手の状況です。</p> <p>【方向性】 平成32年度末までに、有利な財源を利用して市内全小中学校の体育館の非構造部材耐震化工事を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H27年度決算額	34,798千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○タブレット端末、校内LAN環境の整備</p> <p>○文科省委託事業（少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業）</p>			
達成状況	<p>○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>○情報委員会を開催し、情報セキュリティに対する意識向上を図りました。</p> <p>○平成27年度は、前年度に引き続き新学習指導要領に対応するための教材備品の整備を進めるとともに、情報機器（タブレット端末）245台を継続リースしています。</p> <p>【参考】 タブレット端末の総数 282台（リース継続分+寄付分+レンタル分） PC教室以外の教室のLAN環境の整備率=30%（市内小中学校21校（新規設置））</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行う必要があります。また、パソコン・タブレット等との上手な付き合い方を身につける必要があります。</p> <p>【方向性】 学校からの要望に基づき教材備品や情報機器（タブレット他）を整備するとともに、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。また、国の委託事業を受け、情報教育の向上を図ります。</p>			
自己評価	b			

1-2：高校教育・大学教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、大学との連携により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校への支援

事務事業	No.10-1	高等学校振興	H27年度決算額	3,000千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成23年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>○平成7年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成21年度から3年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成24年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取り組みを進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成24年度</th> <th>平成25年度</th> <th>平成26年度</th> <th>平成27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>103</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 151人、1,600千円（H25:124人、1,600千円 H26:144人、1,600千円）</p>					平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	入学者数	103	118	119	110	定員	120	120	120	120
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度															
入学者数	103	118	119	110															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p>【課題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。</p> <p>【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	b																		
事務事業	No.10-2	私立高等学校振興	H27年度決算額	1,097千円															
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。																		
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援																		
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】定額補助 1校当たり600,000円（H22年度より600,000円） 生徒割補助1人当たり2,600円（H22年度より2,600円） 伊那市に住所を有する生徒数191人（H24:158人 H25:154人 H26:181人） 全校生徒数515人（H24:486人 H25:473人 H26:505人）</p>																		
事業の課題及び方向性	<p>【課題】昭和63年より普通コース、進学コースの2コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていきます。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行ないます。</p>																		
自己評価	b																		

(2) 大学との連携推進

事務事業	No.1 1	信州大学・東京藝術大学との連携	H27 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	<p>○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 8 人 (H26: 3 人)</p> <p>○信州大学農学部教職免許取得学生の研修受入れ</p> <p>○信州大学生のボランティアによる通学合宿・おいで塾への協力</p> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <p>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。</p> <p>【方向性】 様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。</p>			
自己評価	b			

1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

(1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H27 年度決算額	3,886 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行ないます。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 【中学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の50%、中学生の31.6%が進学又は学校へ復帰しました。 【参考】 通室者数 小学部3人 (H24:6人 H25:7人 H26:6人) 中学部14人 (H24:11人 H25:14人 H26:19人) 通室割合 (通室児童生徒数/不登校児童生徒数) 小学部 8.1% (H24:40.0、H25:58.3 H26:28.5) % 中学部 36.8% (H24:25.0 H25:28.6 H26:31.6) %			
事業の課題及び方向性	【課題】 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切にし、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H27 年度決算額	29,143 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等） ○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護 ○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携 ○就学相談 ○指定相談支援事業所の運営 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。 ○発達障害を持つ子どもが人とうまくかかわっていくための方法を身につけるためのソーシャルスキルトレーニング（SST）や親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。 ○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子供の安全を守るための支援を強化しました。 <p>【参考】 相談・支援数 6,374 件（H25：7,646 件 H26：6,072 件） 児童虐待通告件数 36 件 77 人（H25：42 件 60 人 H26：64 件 121 人） 個別ケース支援会議 165 回（H25：299 回 H26：286 回） 就学相談委員会に諮った幼児児童生徒数 122 人（H25：84 人 H26：111 人） サービス等利用計画作成数：91 人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。そこで、相談に適切かつ迅速に対応するため、専門職を配置するとともに、児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ることにより、ライフステージに応じた様々な子どもの問題に対応できるようになりました。しかしながら、全体の相談件数が多いことから、個別のケースについて、十分対応できていない状況にあります。また、児童虐待については、困難な事例も多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。</p> <p>【方向性】 今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H27 年度決算額	27,660 千円																				
事業の目的	子ども相談室を中心に、学校、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。																							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、子ども相談室等が連携し不登校児童生徒の支援に取り組む。 ○中学校への教員補助員配置 ○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援 																							
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 21 年度以降は増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。 ○不登校・不適應の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への市費講師を配置しました。（5 中学校へ 9 人） <p>【参考】 不登校児童生徒数・割合 () は%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 20%;">H24</th> <th style="width: 20%;">H25</th> <th style="width: 20%;">H26</th> <th style="width: 20%;">H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>15 人 (0.37)</td> <td>12 人 (0.30)</td> <td>21 人 (0.54)</td> <td>37 人 (0.94)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>44 人 (2.11)</td> <td>49 人 (2.34)</td> <td>60 人 (2.92)</td> <td>38 人 (1.85)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>59 人 (0.96)</td> <td>61 人 (0.99)</td> <td>81 人 (1.36)</td> <td>75 人 (1.26)</td> </tr> </tbody> </table>					H24	H25	H26	H27	小学校	15 人 (0.37)	12 人 (0.30)	21 人 (0.54)	37 人 (0.94)	中学校	44 人 (2.11)	49 人 (2.34)	60 人 (2.92)	38 人 (1.85)	合計	59 人 (0.96)	61 人 (0.99)	81 人 (1.36)	75 人 (1.26)
	H24	H25	H26	H27																				
小学校	15 人 (0.37)	12 人 (0.30)	21 人 (0.54)	37 人 (0.94)																				
中学校	44 人 (2.11)	49 人 (2.34)	60 人 (2.92)	38 人 (1.85)																				
合計	59 人 (0.96)	61 人 (0.99)	81 人 (1.36)	75 人 (1.26)																				

事業の課題及び方向性	<p>【課題】 早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。</p> <p>【方向性】 スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組みを進めます。</p>
自己評価	b

事務事業	No.15	子どもと親の相談員の配置	H27年度決算額	10,649千円
事業の目的	<p>児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。</p>			
事業内容	<p>○ 児童の話し相手・悩み相談</p> <p>○ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む）</p> <p>○ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等</p> <p>○ 市費相談員の配置 相談員13人（県費1人市費12人）を15校へ配置（2校兼務2人）</p>			
達成状況	<p>小学校における延べ相談件数 6,659件 (H24 6,726件 H25 6,584件 H26:6,829件)</p> <p>中学校における延べ相談件数 4,050件 (H24 4,682件 H25 5,727件 H26:7,273件)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 不登校やいじめに発展する前の早期対応が大事であり、不適応児童生徒やその保護者に対する、相談支援体制の一層の充実が求められています。</p> <p>【方向性】 必要に応じ専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.16	スクールカウンセラーの配置	H27年度決算額	1,540千円
事業の目的	<p>児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。</p>			
事業内容	<p>スクールカウンセラーの配置 全小中学校 ・県費配置4人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</p>			
達成状況	<p>県から配当された相談時間では十分な対応ができないため、市費で上乗せし対応しました。</p> <p>【参考】 相談件数 小学校延べ504件 (H24:851件 H25:565件 H26:505件) 中学校延べ601件 (H24:871件 H25:497件 H26:601件) 相談配当時間 県費 811時間 (H24:858時間 H25:864時間 H26:852時間) 市費 439時間 (H24:222時間 H25:284時間 H26:268.5時間)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められていますが、十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。</p> <p>【方向性】 県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。</p>			
自己評価	b			

第2節 生涯学習・芸術文化の振興

2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学・市民大学大学院	H27年度決算額	2,581千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	【市民大学】受講者は、各学年定員を超過している状況で、市民の学習要求の高さが現れています。この学習要求に応えるため、学生による自主運営を行いながら、幅広い分野に渡る講座内容の充実を図っています。			
	平成27年度 講座内容			
	「宮澤賢治とその文学の世界」(講師：堀井正子)			
	JICA 国際協力出前講座「海外派遣での活動体験から」(講師：永井由美子)			
	「トークと語りべの世界」(講師：美咲蘭)			
	「早稲田人形浄瑠璃公演」(公演：早稲田人形保存会)			
	「まるごと元気体操」(講師：山岸洋子)			
	信大出前講座「神城断層地震から学ぶ」(講師：廣内大助)			
	「健康導引養生功」(講師：佐藤省三)			
	「野草講座」(講師：柄山祐希)			
	「今、学校は」～伊那市の教育課題の現状～(講師：北原秀樹 副学長)			
	「市政よもやま」(講師：白鳥孝 学長)			
	「ベトナムのダーちゃん」上映会と後藤監督のトークほか15講座 計26講座			
	【参考】学生数135人 (H25:140、H26:136人) 講座数26講座 (H25:26、H26:25講座)			
【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、第一期後半及び第二期前半を開講しました。伊那市の発展のため行動できる地域のリーダーとなる人材の育成を目指します。				
平成27年度 研究内容				
歴史コース : 高遠藩主の変遷、川下り郷の米作り ほか				
自然科学コース : 里山の植物、食用になる植物、伊那谷の絶滅危惧種 ほか				
【参考】学生数26人 (歴史コース15人、自然科学コース11人) 講座数19講座 出席率97.6%				
事業の課題及び方向性	【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。修了者の地域貢献の推進が必要です。 【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。			
自己評価	b			

事務事業	No.18	桜大学	H27年度決算額	580千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	講座の開催（4月29日～2月27日 会場：やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、37回目を迎えた伝統ある住民の学習の場です。			
	平成27年度講座内容（講師）			
	「名君 保科正之公」（講談師 一龍齋 貞花氏）			
	「信州高遠町の成立と発展」（信州大学教育学部教授 石澤 孝氏）			
	「田山花袋と山裾の町」（興学館大学文学部助教 小堀 洋平氏）			
	「心の豊かさ～二胡の音色から～」(二胡奏者・医学博士 姜曉艶氏)			
	【参考】受講者数640人（H24:600人 H25:670人 H26:610人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。</p> <p>【方向性】長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.19-1	長谷生涯学習講演会	H27年度決算額	275千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月7日 会場：長谷小学校 体育館） ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	平成27年度 講演 年齢に合った「活脳」トレーニング（諏訪東京理科大学共通教育センター教授 篠原 菊紀氏）			
	日常的な場面での脳の活動の研究や「脳トレ」に関する著書を多数出版されている同氏を招き、ブームにもなった脳を活かす「脳トレ」についてご講演いただいた。参加者アンケートからは「非常に参考になった。また聴きたい」など好評であった。 【参考】受講者数104人（H25:204人 H26:145人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。</p> <p>【方向性】住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.19-2	親孝行の讃歌事業	H27年度決算額	3,231千円
事業の目的	民話「孝行猿」の教育への活用と長谷地域の振興を図ります。			
事業内容	「今、伝えたい親へのおもい」を一般の部・小中学生の部に分け作文を公募。			
達成状況	<p>隔年実施（平成26年度は休み） 募集期間 平成27年5月21日～7月31日 応募者数 一般の部 394点・小中学生の部 598点（合計992点 過去最高） 結果発表・表彰式・作品集発行 11月8日 長谷学習リーフレット作成 H28.2月下旬</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表彰式を例年、審査期間等の関係から年明けの1月・2月に開催していたものを、季節の良い11月に開催しました。表彰式を早めたことに伴い募集期間が例年よりも1ヶ月ほど短くなりましたが過去最高の応募がありました。 ・賞金、旅費等を減額するため上位入賞点数を絞りました。（孝行賞3点→1点、勘助賞5点→3点、佳作は5点程度減） <p>【参考】応募者数992点（H24:416点 H25:919点）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】公募体制の全国的な展開と孝行猿（親孝行）を活かした地域振興策の実施が求められています。</p> <p>【方向性】友好都市や関係ある市町村の協力、インターネットを活用した全国的な展開と、伊那市観光協会や伊那市観光(株)と協力し、観光を絡めた地域振興策を図ります。</p>			
自己評価	a			

(2) 公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H27年度決算額	4,705千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。				
	・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高750万円まで 最低事業費 100万円以上		
		増築・改築・ 改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高150万円まで 最低事業費 50万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
	町内会・常会・ 組等が管理運 営する集会施 設	新築・増築	対象外		
		改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高60万円まで 最低事業費 25万円以上		
外構整備・ 舗装		補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上			
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 8件 4,705千円 (H26: 6件 3,196千円) ○平成23年度から、合併前の3市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に費用の一部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.2 1	公民館建設（施設管理）	H27 年度決算額	600,942 千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建て替えます。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 伊那公民館、手良公民館の建て替えについて順次計画を策定 ○施設改修等整備			
達成状況	○本年度は、実施計画に沿って、伊那公民館、手良公民館の建設を行いました。 手良公民館の建て替え計画を具体化しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】手良公民館の建て替えを計画的に進める必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に建設を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.2 2	公民館共同事業	H27 年度決算額	7,073 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9 公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」を開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「ふるさと講座」（西春近、手良 200 人） ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 439 号～第 450 号			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 また、連携の目的や効果を検討し、事業の企画や運営を行う必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.23	公民館事業	H27年度決算額	108,299千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特徴や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成27年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊那	夏休みおいで塾、らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、陶芸教室、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富 県	夏休み・富県子どもおいで塾、子ども公民館書道教室、富県と良寛さん、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、生きもの探検隊など		
	美 簗	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、すくすくベビー、母から娘へ伝えたい味講習会、童謡・唱歌の集いなど		
	手 良	わいわいくらぶ、俳句教室、手良おいで塾、野草講座、文化祭など		
	東春近	子ども体験教室、楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっところ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、区民ハイキングなど		
	西箕輪	わんぱく親子塾、テニス教室、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会、紅葉教室など		
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高 遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、美術館・歴史博物館を訪ねて、里山の文化を歩く講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、ハーモニカ教室、南アルプスジオパーク講座など		
	長 谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、歩け歩け運動、女性教室ココロとカラダの栄養補給など		
	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 162,666人 (H25: 166,478人、H26:161,563人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

(3) 図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H27年度決算額	9,615千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・修理、除籍） ○書架配置換え・案内表示の更新 ○図書館システムの維持・管理																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成27年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館システムの更新を行いました。（伊那・高遠） ・施設の修繕及び備品の整備を行いました。（伊那） ・島村利正草稿等の整備を行いました。（高遠） <p>【参考】 蔵書数は図書のみ、（ ）内H26</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>214,646 (212,103)</td> <td>349,948 (335,460)</td> <td>51,131 (50,028)</td> <td>73,812 (71,707)</td> </tr> <tr> <td>高遠町図書館</td> <td>93,981 (94,018)</td> <td>48,812 (46,304)</td> <td>6,307 (6,166)</td> <td>9,979 (10,320)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり貸出冊数（冊）</th> <th>登録率％ （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>5.7</td> <td>7.4</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.4</td> <td>6.0</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.2</td> <td>4.1</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.5</td> <td>3.6</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>7.8</td> <td>5.1</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.8</td> <td>7.4</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>12.6</td> <td>6.4</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>6.7</td> <td>5.0</td> <td>76</td> </tr> </tbody> </table>				名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	214,646 (212,103)	349,948 (335,460)	51,131 (50,028)	73,812 (71,707)	高遠町図書館	93,981 (94,018)	48,812 (46,304)	6,307 (6,166)	9,979 (10,320)		人口一人当たり蔵書冊数（冊）	人口一人当たり貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）	伊那市	5.7	7.4	87	駒ヶ根市	5.4	6.0	60	辰野町	4.2	4.1	81	箕輪町	2.5	3.6	54	飯島町	7.8	5.1	94	南箕輪村	5.8	7.4	58	中川村	12.6	6.4	104	宮田村	6.7	5.0	76
名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	214,646 (212,103)	349,948 (335,460)	51,131 (50,028)	73,812 (71,707)																																																			
高遠町図書館	93,981 (94,018)	48,812 (46,304)	6,307 (6,166)	9,979 (10,320)																																																			
	人口一人当たり蔵書冊数（冊）	人口一人当たり貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）																																																				
伊那市	5.7	7.4	87																																																				
駒ヶ根市	5.4	6.0	60																																																				
辰野町	4.2	4.1	81																																																				
箕輪町	2.5	3.6	54																																																				
飯島町	7.8	5.1	94																																																				
南箕輪村	5.8	7.4	58																																																				
中川村	12.6	6.4	104																																																				
宮田村	6.7	5.0	76																																																				
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p>【方向性】 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						

(4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H27年度決算額	83,996千円																								
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。																											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理 ○貸し館業務 ○自主事業の運営 																											
達成状況	<p>利用者数に若干の変動はあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての稼働率も高く、中心市街地の誘客に役割を果たしています。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成27年度 自主事業 (内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、ヘアアレンジメントほか25講座)</td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td>第12回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第11回伊那谷伝統文化公演 (富山越中八尾おわら風の盆伊那谷公演)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音楽公演事業 (「福間洗太郎ピアノリサイタル」ほか6事業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか7事業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>青少年音楽事業 (「第10回 小さな芽コンサート」ほか5事業)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大野利可 篠笛講座</td> <td></td> </tr> <tr> <td>軒下コンサート (楠州流聖楠会 ほか4団体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主企画教室 (お菓子づくり講座ほか12講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】 利用室数 9,814コマ (H25:9,436、H26:9,679コマ) 利用者数 155,119人 (H25:166,461、H26:154,600人) 各室平均稼働率 57.9% (H25:56.0、H26:56.7%)</p>				平成27年度 自主事業 (内容)		芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、ヘアアレンジメントほか25講座)		第12回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)		第11回伊那谷伝統文化公演 (富山越中八尾おわら風の盆伊那谷公演)		音楽公演事業 (「福間洗太郎ピアノリサイタル」ほか6事業)		四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか7事業)		青少年音楽事業 (「第10回 小さな芽コンサート」ほか5事業)		大野利可 篠笛講座		軒下コンサート (楠州流聖楠会 ほか4団体)		語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)		自主企画教室 (お菓子づくり講座ほか12講座)		自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)	
平成27年度 自主事業 (内容)																												
芸術文化体験教室 (季節の料理、クラシックバレエ、ヘアアレンジメントほか25講座)																												
第12回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、展示の部)																												
第11回伊那谷伝統文化公演 (富山越中八尾おわら風の盆伊那谷公演)																												
音楽公演事業 (「福間洗太郎ピアノリサイタル」ほか6事業)																												
四季のコンサート (「春を呼ぶフルートアンサンブル」ほか7事業)																												
青少年音楽事業 (「第10回 小さな芽コンサート」ほか5事業)																												
大野利可 篠笛講座																												
軒下コンサート (楠州流聖楠会 ほか4団体)																												
語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級・上級 韓国語講座)																												
自主企画教室 (お菓子づくり講座ほか12講座)																												
自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)																												
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。</p> <p>【方向性】 利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。</p>																											
自己評価	b																											



除籍本頒布会
(伊那図書館)



なかよし親子で楽しくお菓子づくり
(生涯学習センター)

(5) 人権同和教育の推進

事務事業	No.28	社会人権同和教育	H27年度決算額	2,809千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同和問題だけでなく、いじめなどの問題も含め、人権問題について学習する機会を提供します。 ・人権同和教育講座・学級などの開催 ・情報紙「えがお」の発行 			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。</p> <p>【参考】講演会 3回・1,305人 「2015人権フェスティバル in いな」を含む (H25: 3回・1,530人、H26: 3回・878人)</p> <p>公民館人権講座 11回・343人 (H25: 11回・389人、H26: 11回・378人)</p> <p>人権同和教育学級 現在休会 (平成25年度から)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】同和对策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、「いじめ」など全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】市民の重要課題として、人権教育の場や情報の提供など、啓発活動を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.29	学校人権同和教育	H27年度決算額	1,495千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な活動の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てる。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 (委員長・副委員長・委員各学校1名) ○ 副読本「あけぼの」配布 (小学1・3・5年生、中学1年生) ○ 人権教育講演会等の実施 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践した。 ○ 伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4回 学社連携による推進会議 (2回) 職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催 ○ 人権同和教育副読本「あけぼの」を小学校1・3・5年生、中学校1年生に配布し活用 ○ 人権教育プログラムCAPワークショップを4小学校で実施 (H27: 児童242人 教職員・保護者88人 H26: 児童242人 教職員88人) 			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取り組みを通じ豊かな人間性の育成に努めます。</p>			
自己評価	b			

2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

(1) 青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H27年度決算額	81,670千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小(2クラブ)、伊那東小(3クラブ)、伊那北小(2クラブ)、伊那西小、富巣小、新山小、美篤小(2クラブ)、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、長谷小の14校に開所(高遠北小は設置済みであるが、利用者が少なく休止中)			
達成状況	入所者が多い伊那東小は3クラブ、伊那小・伊那北小・美篤小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。 【参考】学童クラブ19箇所 (H25:17箇所、H26:18箇所) 入所者数528人 (H25:519、H26:522人) クラブ設置小学校数/小学校数100% (H25:93、H26:100%) 入所者数/児童数13.8% (H25:12.8、H26:13.1%)			
事業の課題及び方向性	【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】大規模クラブの解消(分割)や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.31	子ども週末活動の支援	H27年度決算額	200千円
事業の目的	体験活動を通して「ものの見方、考え方、協力、自主性」などを身に付け、地域で主体的に活動できるジュニア・リーダーの育成を図ってきたが、後継指導者がみつからず、平成26年度で市委託事業終了。平成27年度末で事業は完全廃止			
事業内容	平成27年度は記念誌「はなまる地域探検隊のあゆみ」の発行			
達成状況	学年の枠を越えた仲間の中で、協力し合い、多くのことを体験することにより、地域で自分たちが活躍できる資質を身に付ける活動を13年間行ってきました。 ○平成27年度の主な活動 ・はなまる探検隊の活動軌跡を綴った記念誌「はなまる地域探検隊のあゆみ」を発行 【参考】 記念誌 100部 作成			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもの居場所、縦割りの仲間づくりに重要な組織。今後の支援、関わり方 【方向性】平成27年度の「はなまる探検隊」は、市の委託事業から離れ、独立行政法人国立青少年教育振興機構の「こどもゆめ基金」の助成事業採択を受け、独立組織にて活動を行っていましたが、後継者の課題や子育て支援策が多様化してきたことなどにより平成27年度末をもって活動終了見込み			
自己評価	b			

事務事業	No.3 2	少年補導委員会・少年補導センター	H27 年度決算額	1,039 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭補導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭補導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭補導を実施 ・「補導センターだより」の発行（年 2 回）			
達成状況	街頭補導による指導件数は減少傾向にあり、補導活動が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。 【参考】 補導活動延べ人員 331 人（H25:417、H26: 383 人） 指導（声かけ）件数 22 件（H25:34、H26:16 件）			
事業の課題及び方向性	【課題】 子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 【方向性】 少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.3 3	子ども会・育成会	H27 年度決算額	2,805 千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区 34 子ども会・育成会が行う各種事業を支援します。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動 ○子どもの安全、有害環境の排除 ○よりよい教育環境推進協議会などへ参画			
達成状況	子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。 ○平成 27 年度各地区育成会実施事業 有害環境チェック活動（7、2 月）、「信州あいさつ運動」への取組、魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。 【方向性】 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。			
自己評価	b			

伊那市よりよい教育環境推進連絡会



事務事業	No.34	成人式	H27年度決算額	1,068千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。			
事業内容	成人式の実施 ・公民館単位10地区で実施			
達成状況	平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。 【参考】()内H26			
	地区	実施日	対象者	出席者
	竜西	8月15日	153人 (174人)	118人 (116人)
	竜東	8月15日	249人 (220人)	152人 (137人)
	富県	8月15日	28人 (22人)	21人 (20人)
	美篁	8月15日	74人 (73人)	56人 (53人)
	手良	8月14日	28人 (24人)	24人 (14人)
	東春近	8月15日	69人 (62人)	56人 (54人)
	西箕輪	8月15日	75人 (58人)	41人 (31人)
	西春近	8月15日	67人 (79人)	60人 (64人)
	高遠町地区	1月2日	46人 (63人)	39人 (56人)
	長谷地区	1月1日	13人 (14人)	11人 (13人)
	※伊那地区(竜西～西春近)計71.1% (H25:71.0、H26:68.7%)			
事業の課題及び方向性	【課題】 開催方法、時期等を含めて、新成人にとってより良い成人式とは何かを検討し、実施する。 【方向性】 「伊那市成人式のあり方検討委員会」の結果からこれまでどおり分散形式とし、伊那市成人式として一体感を持てるよう、記念品、パンフレット等できることから統一していく。			
自己評価	b			



伊那市成人式(竜西地区)



平成27年度記念品(印鑑ケース)

2-3：文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

(1)文化事業などの充実

事務事業	No.35-1	伊澤修二記念音楽祭	H27年度決算額	7,339千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通し、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠町出身で東京藝術大学の前進である東京音楽学校の初代校長を勤めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっている。 <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会 			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。高校生の関心向上を目的として音楽祭のチラシ、ポスター原画作成を高校生に依頼しました。また、平成28年度に30周年を迎えるため、記念事業として東京藝大シンフォニーオーケストラ演奏の「伊那市の歌」CDを制作しました。 【参考】入場者数2,200人 (H25:2,100人、H26:2,200人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興に活かす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.35-2	い〜な音楽祭	H27年度決算額	291千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	<p>○い〜な音楽祭2015開催(平成27年12月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会 			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用をかけずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。 【参考】参加団体数24団体 (H25:22、H26:24団体)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。参加団体の増加に対応し、運営方法の検討を進める必要があります。</p> <p>【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。25年度から参加団体が順番で事務局を務めています。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.36	市民音楽祭	H27年度決算額	482千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	<p>①ふるさと芸能祭 ②手づくりの演奏会 ③生涯学習センターイベントの3事業を実施します。①と②は隔年で実施します。</p> <p>平成24年度事業 手づくりの演奏会「オペラ春香」 平成25年度事業 伊那節大会2013／ふるさと芸能祭 平成26年度事業 手づくりの演奏会「カルミナ・ブラーナ」 平成27年度事業 伊那節大会2015／ふるさと芸能祭 手づくりの演奏会「第九演奏会」(開催準備補助)</p>			
達成状況	内容などによって参加者にバラツキはありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。市民が企画、出演する手づくりの音楽祭です。 【参考】伊那節大会／ふるさと芸能祭 入場者数200人 伊那節コンクール30人出場			
事業の課題及び方向性	【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。 【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.37	千両千両井月さんまつり 信州伊那井月俳句大会	H27年度決算額	1,031千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。 また、俳句愛好者以外にも井月を広め、地域活性化に繋げることを目的に、大会にあわせ、井上井月顕彰会と連携し、千両千両井月さんまつりを開催します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・第24回信州伊那井月俳句大会の開催(平成27年9月6日) ・実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行います。 ・朗読劇「風狂のうたびと」公演、井月シンポジウム、井月関連展示、物販ほか ・子ども向けテキストの制作 			
達成状況	井月愛好者、俳句愛好者等により構成するまつり実行委員会と、俳句大会実行委員会が協働し、『まつり』要素を取り入れて実施した。開催経費については、「地域発元気づくり支援金」の助成を受けたことにより、投句料と合わせて大半を実行委員会で賄うことができた。また、北村皆雄氏、橋爪まんぷ氏の協力により、井月の生涯を紹介し俳句の教材として活用できる井月テキストを制作した。 【参考】俳句大会 投句数5,440句(一般1,722句、小中学生3,718句) (H25:7,635句、H26:8,033句) 一般参加者数200人(H25:234人、H26:200人) その他まつり 朗読劇176人、井月シンポジウム70人ほか 井月テキスト「伊那の井月さん」4,300部			
事業の課題及び方向性	【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。まつりとしての事業内容の見直し、広報等、参加者を増やす方策が必要です。民間団体主体の事業運営には課題があり、今後の運営主体の検討が必要です。 【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。俳句以外の面からも井月に親しむことのできる「まつり」の民間主導による運営の可能性を検討します。			
自己評価	b			

事務事業	No.38	進徳館の日	H27年度決算額	434千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月23日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月23日 会場：高遠スポーツ公園文化体育館）			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっている。</p> <p>○平成27年度 第21回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五聖像に礼拝 ・式典 ・砲術演武 信州高遠藩鉄砲隊 ・基調講話 高遠小学校 長嶋良子校長「美しく 清らかで やさしく たくましい 高遠の子らの育成 ー地域と共にー」 ・学習報告 高遠高等学校3年 地域の科学受講生の皆さん 「秋葉街道におけるジオサイトの紹介」 ・基調講演「内藤の若様」と最後の枢密顧問官ー最高裁創設に尽くしたふたりの高遠人ー 講師 那須 弘平氏（元最高裁判所判事） <p>【参考】参加人数 150人（H25: 200人 H26: 150人）</p> <p>○平成27年度 第17回進徳館の日記念剣道大会 【参考】参加チーム数 35チーム（H25: 31チーム H26: 35チーム）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H27年度決算額	0円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。教職員向けの体験講座も開催しました。</p> <p>○第25回伊那能（平成27年11月15日開催） 【参考】入場者数 560人（H25:630人、H26:630人） 教職員向け体験講座 30人 負担金 0円（H25: 0円、H26: 475千円隔年負担のため）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる貴重な機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催に努めます。</p>			
自己評価	b			

(2) 博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H27年度決算額	41,135千円												
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。															
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会、講座等の開催 ○ 展示関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展、企画展3回、特別展2回 ○ 貸館業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習室、体験教室1、体験教室2、講堂 ○ 資料の保管 		マスコットキャラクター 「つくルン」													
達成状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成27年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【講演会】 開館5周年記念講演会、第15回企画展特別講演会、「やまとの向き合い方を考える」講演会 参加者 232人 【講座等】 宇宙の学校（5回）、地球の学校（5回）、秋冬の体験教室（3講座）、ジオ体験教室（化石のレプリカ作り）、お手軽！シカ肉家庭料理教室 9講座 19回 延参加者 690人 </td> <td style="width: 50%;"></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財） 【企画展展示】 第15回企画展（伊那市の大！大絵馬博覧会） 第16回企画展（最新宇宙情報2015） 第17回企画展（伊那市創造館と秘密の書庫） 特別展 橋爪玉斎 - 「千匹馬図」と「井月の肖像」を描いた文人と人と作一展 特別展 戦時中資料に残る生活の記録 特別展 伊那谷の生んだ芸術家たち（2） 延観覧者 13,702人 </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 【備品購入】 LED内蔵ミュージアムケース 1台 </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 【貸館】 延利用者 16,618人 </td> <td></td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 【参考】 H27 開館日数 301日、利用者数 38,417人 H26 開館日数 300日、利用者数 38,430人 </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				平成27年度 事業内容		【講演会】 開館5周年記念講演会、第15回企画展特別講演会、「やまとの向き合い方を考える」講演会 参加者 232人 【講座等】 宇宙の学校（5回）、地球の学校（5回）、秋冬の体験教室（3講座）、ジオ体験教室（化石のレプリカ作り）、お手軽！シカ肉家庭料理教室 9講座 19回 延参加者 690人		【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財） 【企画展展示】 第15回企画展（伊那市の大！大絵馬博覧会） 第16回企画展（最新宇宙情報2015） 第17回企画展（伊那市創造館と秘密の書庫） 特別展 橋爪玉斎 - 「千匹馬図」と「井月の肖像」を描いた文人と人と作一展 特別展 戦時中資料に残る生活の記録 特別展 伊那谷の生んだ芸術家たち（2） 延観覧者 13,702人		【備品購入】 LED内蔵ミュージアムケース 1台		【貸館】 延利用者 16,618人		【参考】 H27 開館日数 301日、利用者数 38,417人 H26 開館日数 300日、利用者数 38,430人	
平成27年度 事業内容																
【講演会】 開館5周年記念講演会、第15回企画展特別講演会、「やまとの向き合い方を考える」講演会 参加者 232人 【講座等】 宇宙の学校（5回）、地球の学校（5回）、秋冬の体験教室（3講座）、ジオ体験教室（化石のレプリカ作り）、お手軽！シカ肉家庭料理教室 9講座 19回 延参加者 690人																
【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器（国重要文化財） 【企画展展示】 第15回企画展（伊那市の大！大絵馬博覧会） 第16回企画展（最新宇宙情報2015） 第17回企画展（伊那市創造館と秘密の書庫） 特別展 橋爪玉斎 - 「千匹馬図」と「井月の肖像」を描いた文人と人と作一展 特別展 戦時中資料に残る生活の記録 特別展 伊那谷の生んだ芸術家たち（2） 延観覧者 13,702人																
【備品購入】 LED内蔵ミュージアムケース 1台																
【貸館】 延利用者 16,618人																
【参考】 H27 開館日数 301日、利用者数 38,417人 H26 開館日数 300日、利用者数 38,430人																
事業の課題及び方向性	【課題】 事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。 子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。 【方向性】 自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。															
自己評価	a															

事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H27 年度決算額	18,670 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社山車や仲町山車など勇壮な山車と祭り		
	第1展示室	高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠城主内藤家に伝わった家宝の兜や古文書		
第2展示室 (特別展示)	藩校進徳館と「高遠の学」 伊澤修二・多喜男、中村弥六など地域が生んだ偉人たち 高遠石工と石仏師守屋貞治			
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復元屋敷を展示			
	○特別展の開催（下記）			
達成状況	<p>【特別展】 第48回特別展 高遠藩内藤家の参勤交代展（3月25日～6月21日） 第49回特別展 戦争の残影展（10月21日～12月6日） 第50回特別展 伊那市小中学生社会科新聞展（10月24日～11月8日）</p> <p>【講座】 歴博講座 2015 夏、歴博講座 2015 冬 参加者 112 人 中学生講座 参加校 5 校、参加者 49 人</p> <p>【参考】 ・特別展開催数 3 回（H25：3 回、H26：4 回） ・年間入館者数 16,816 人（H25：20,785 人、H26：16,782 人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他市との文化交流を図る必要があります。</p> <p>【方向性】 館の取組が市民から見え、皆さんの伊那の地を愛する思いに応える学習センターとしての働きを高めるため、常設展示に加え、魅力ある特別展や講座を開催します。そのためにも、臨時職員のための現体制から、専門知識を備え、企画運営力がある職員の配置について検討をします。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	H27 年度決算額	29,241 千円																																
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。																																			
事業内容	<p>○常設展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○特別展</p> <p>○アートスクール 東京藝術大学の学生、地元芸術家などの指導と協力を得て、人物クロッキー、風景画、陶芸などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器や歌など国内外で活躍中の演奏家や地域で活躍している演奏家によるコンサート</p>																																			
達成状況	<p>伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。</p> <p>○平成 27 年度特別展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テ</th> <th>マ</th> <th>内</th> <th>容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>竹久夢二展 (4月5日～5月24日)</td> <td></td> <td>現在でも高い人気の黒く潤んだ瞳と線の細い体の夢二式美人画や、児童雑誌や詩文の挿絵、歌謡・童謡など、幅広い領域で活躍した大正ロマンを象徴する作家である、竹久夢二の作品を展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>若手アーティスト展 (5月28日～7月12日)</td> <td></td> <td>現代に生きる若いアーティストがジャンルにとらわれず、素直に発する若々しい感性と美の表現を美術館の空間に展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>伊藤三千人展 (7月18日～9月2日)</td> <td></td> <td>伊那谷や日本の風景、自然を水彩画や油彩画で描き続けて 60 年、神奈川県で活躍する、高遠町出身画家の作品を展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>美和晋・水上香絵二人展 (9月5日～10月5日)</td> <td></td> <td>日本人的な情感、抒情性の色彩表現が特徴の長谷出身作家と貼り絵作家の長女作品を展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>信州伊那高遠の四季展 (10月10日～10月25日)</td> <td></td> <td>伊那市の景色、行事、文化などをテーマにした作品を全国から公募し、応募作品 319 点の中から入賞・入選作品 198 点を美術館とかんてんばばホールに展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>四季展小・中・高校生作品展 (7月20日～8月7日)</td> <td></td> <td>伊那市の景色、行事、文化などをテーマにした作品を市内の小学生・中学生・高校生から募集し、応募作品 60 点を市役所といなっせに展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>市内学校お宝展 (2月4日～3月28日)</td> <td></td> <td>市内の小中学校が所蔵している美術作品の中から、明治、大正、昭和の初期にかけて活躍した郷土作家の作品を選定して展示しました。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ミュージアムコンサート 汐入規予ナイトコンサート、コーダ・カプリチオーザ オータムコンサート、川畠成道ヴァイオリンリサイタル</p> <p>【参考】 入館者数 13,273 人 (H25: 18,342 人、H26: 13,549 人、) コンサート入場者 268 人 (H25: 264 人、H26: 250 人、)</p>				テ	マ	内	容	竹久夢二展 (4月5日～5月24日)		現在でも高い人気の黒く潤んだ瞳と線の細い体の夢二式美人画や、児童雑誌や詩文の挿絵、歌謡・童謡など、幅広い領域で活躍した大正ロマンを象徴する作家である、竹久夢二の作品を展示しました。		若手アーティスト展 (5月28日～7月12日)		現代に生きる若いアーティストがジャンルにとらわれず、素直に発する若々しい感性と美の表現を美術館の空間に展示しました。		伊藤三千人展 (7月18日～9月2日)		伊那谷や日本の風景、自然を水彩画や油彩画で描き続けて 60 年、神奈川県で活躍する、高遠町出身画家の作品を展示しました。		美和晋・水上香絵二人展 (9月5日～10月5日)		日本人的な情感、抒情性の色彩表現が特徴の長谷出身作家と貼り絵作家の長女作品を展示しました。		信州伊那高遠の四季展 (10月10日～10月25日)		伊那市の景色、行事、文化などをテーマにした作品を全国から公募し、応募作品 319 点の中から入賞・入選作品 198 点を美術館とかんてんばばホールに展示しました。		四季展小・中・高校生作品展 (7月20日～8月7日)		伊那市の景色、行事、文化などをテーマにした作品を市内の小学生・中学生・高校生から募集し、応募作品 60 点を市役所といなっせに展示しました。		市内学校お宝展 (2月4日～3月28日)		市内の小中学校が所蔵している美術作品の中から、明治、大正、昭和の初期にかけて活躍した郷土作家の作品を選定して展示しました。	
テ	マ	内	容																																	
竹久夢二展 (4月5日～5月24日)		現在でも高い人気の黒く潤んだ瞳と線の細い体の夢二式美人画や、児童雑誌や詩文の挿絵、歌謡・童謡など、幅広い領域で活躍した大正ロマンを象徴する作家である、竹久夢二の作品を展示しました。																																		
若手アーティスト展 (5月28日～7月12日)		現代に生きる若いアーティストがジャンルにとらわれず、素直に発する若々しい感性と美の表現を美術館の空間に展示しました。																																		
伊藤三千人展 (7月18日～9月2日)		伊那谷や日本の風景、自然を水彩画や油彩画で描き続けて 60 年、神奈川県で活躍する、高遠町出身画家の作品を展示しました。																																		
美和晋・水上香絵二人展 (9月5日～10月5日)		日本人的な情感、抒情性の色彩表現が特徴の長谷出身作家と貼り絵作家の長女作品を展示しました。																																		
信州伊那高遠の四季展 (10月10日～10月25日)		伊那市の景色、行事、文化などをテーマにした作品を全国から公募し、応募作品 319 点の中から入賞・入選作品 198 点を美術館とかんてんばばホールに展示しました。																																		
四季展小・中・高校生作品展 (7月20日～8月7日)		伊那市の景色、行事、文化などをテーマにした作品を市内の小学生・中学生・高校生から募集し、応募作品 60 点を市役所といなっせに展示しました。																																		
市内学校お宝展 (2月4日～3月28日)		市内の小中学校が所蔵している美術作品の中から、明治、大正、昭和の初期にかけて活躍した郷土作家の作品を選定して展示しました。																																		

事業の課題及び方向性	<p>【課題】入館者数が減となり企画展の内容や周知等の検討が必要と思われます。所蔵美術芸術品の活用をはかるとともに、美術や芸術に関連する講座・教室など魅力ある事業の企画運営を進める必要があります。</p> <p>【方向性】魅力ある企画展及び所蔵作品を活かした展示企画の検討を行い、市民や地域への幅広いPRに努めます。また、魅力ある講座・教室を企画、貸し館事業(コンサート・展覧会・結婚式等)も進めて、芸術文化に触れ、美術館に親んでもらえる機会を積極的に提供します。</p>
自己評価	b

第3節 文化財の保存・継承・活用

3-1：文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護するだけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

(1)文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.43	史跡高遠城跡	H27年度決算額	81千円
事業の目的	昭和48年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和35年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。合併後の新伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。			
事業内容	・史跡高遠城跡の維持管理を行いました 保存管理計画等に基づき、復元時期を幕末に設定して復元整備を行います。土砂流出崩落を防止し、景観回復のための自然植生再生による斜面の整備を行います。			
達成状況	国庫補助要望が不採択となり、事業実施を翌年度に延期			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】整備実施計画の短期整備計画(H17～)に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。</p> <p>【方向性】整備委員会の開催により後期整備実施計画を推進します。</p>			
自己評価	c			



池上秀敏 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.4 4	民俗資料館	H27 年度決算額	4,214 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めた。			
達成状況	○特別企画展示の開催（年2～3回） ○公民館と共催で体験講座を開催			
事業の課題及び方向性	○企画展 「ひなまつり展」2/23～4/28、「五月人形展」4/30～5/24 ○体験講座（高遠町公民館と共催で実施） しめ飾りづくり 【参考】年間入館者数3,474人（H25:5,539人、H26:4,321人）			
自己評価	b			



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H27 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m ²			
達成状況	○平成 27 年度特別企画 「端午の節句飾りと懐かしの写真展」、「歴史講演会」ほか 【参考】入館者数 1,253 人 (H26: 1,444 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を進める必要があります。 【方向性】地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できるよう企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	民俗文化の伝承	H27 年度決算額	1,350 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成 27 年度事業 ○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（6 団体）			
事業の課題及び方向性	【課題】地域の民俗文化を伝承しようとする地域の活動や保存会を支援する必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら支援を進めます。			
自己評価	b			

第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

4-1：豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

(1) スポーツライフの実現

事務事業	No.4 7	市民体育祭	H27 年度決算額	1,321 千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	○市民体育祭の開催 () 内 H26			
	種 目	参加者数	種 目	参加者数
	ゴルフ	205 (186) 人	バドミントン	118 (117) 人
	軟式野球 (学童)	281 (318) 人	バレーボール	186 (186) 人
	〃 (一般)	410 (457) 人	バスケットボール	250 (中止) 人
	山岳	22 (21) 人	ソフトボール	273 (395) 人
	太極拳・気功	39 (39) 人	ソフトテニス	175 (192) 人
	少林寺拳法	42 (43) 人	卓球	94 (108) 人
	ゲートボール	80 (80) 人	柔道	167 (200) 人
	硬式テニス	36 (52) 人	サッカー	90 (161) 人
	弓道	149 (132) 人	マレットゴルフ	70 (79) 人
	剣道	325 (310) 人	ソフトバレー	188 (118) 人
	陸上	58 (78) 人	スケート	中止 (40) 人
	トリムバレー	186 (172) 人	綱引	39 (47) 人
	フットサル	269 (中止) 人	スキー	46 (57) 人
	海洋	301 (中止) 人	パターゴルフ	37 (21) 人
カヌー	10 (18) 人	ラグビー	18 (15) 人	
達成状況	<p>体育協会の各専門部が種目毎に主管となって実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実させ、参加者を増やす方策を講じながら、継続して開催することを目標に実施しています。平成 27 年度は、暖冬の影響で伊那西スケート場が開場できず、スケート競技が中止となりました。</p> <p>【参考】平成 27 年度実施状況 28 種目 29 部門 (7 月 5 日から 2 月 28 日) 1 種目中止 参加人数 4,164 人 (H25:4,322 人、H26:3,636 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】多くの市民が参加できるよう、競技性のみでなく、普及を念頭に置いた体験型の内容や、広報を充実させることにより参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等 PR に努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と初心者が参加できる種目も検討し、開催します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.48	総合型地域スポーツクラブ	H27 年度決算額	4,597 千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	総合型地域スポーツクラブの活動支援 ・スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができるスポーツクラブとして、各種イベントや教室の開催を通じ、会員の登録数が着実に増えてきています。</p> <p>通年開催の講座は 90 を超えており、スポーツ以外の分野の教室も開催しています。これは、スポーツに関心のない市民にとって、新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとなることへの期待や、多くの会員を確保しクラブの経営を安定させるなどの目的があり、先進的な取り組みと評価されています。</p> <p>平成 27 年度も市からの委託事業で、各スポーツ団体向けに指導者スキルアップ講座を開催しました。また、健康推進課から健康応援ポイント事業を受託し、市と連携して市民の健康増進に貢献しました。</p> <p>これまでの体育施設利用料金の減額に代わり、減額相当分を助成する形で平成 26 年度より支援を行っています。</p> <p>今後、伊那市の生涯スポーツ振興の中心を担う存在となることが期待されています。</p> <p>【参考】クラブ登録会員数 2,658 人 (H25:2,272 人、H26:2,320 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】会費については県下のクラブの中でもトップクラスであり、会費に見合う、地域ニーズにあった各種事業を開催する必要があります。今後、長年にわたり維持可能な組織・運営形態について一緒に検討していきます。</p> <p>【方向性】各種大会、教室の開催など、より多くの市民がスポーツに係われるようなクラブ運営が推進できるよう支援します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.49	春の高校伊那駅伝	H27 年度決算額	10,685 千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市のPRを行います。			
事業内容	春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>全国から注目を集める大会に成長し、男女合わせて 183 校がエントリーしました。当日は 165 チームと多くの学校が参加し、大会の充実が図られました。好天に恵まれ、応援運動やイベントなども盛り上がりを見せ、沿道からたくさんの市民に応援していただき、市民とともに作り上げる駅伝となっています。今大会から中継するテレビ局が変わり、放送時間を多く確保することができました。</p> <p>また、伊那市の魅力発信・合宿誘致についても、機会を得て合宿ガイドや観光パンフレットを送付し、取り組みを進めています。今大会でも、農家民泊の利用を案内し、3校が宿泊しました。</p> <p>【参考】エントリー数 1,741 人 (H25 : 1,859 人、H26:1,940 人) 出場数 165 チーム (H25:180 チーム、H26 : 185 チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】陸上競技の普及・振興とともに、伊那市のPRにきわめて有効な事業であるため、観光PRや合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」として大会を充実させる必要があります。また、参加校が増えたことから、引き続き安全な大会となるよう交通規制等について常に見直しを行う必要があります。</p> <p>【方向性】実行委員会を中心に、魅力ある安全な大会運営を進めます。加えて、男子第 40 回記念大会（平成 28 年度）に向けて記念事業を進めています。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.50	ソフトボールの振興	H27年度決算額	700千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	○全国規模の大会の開催 ○長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付			
達成状況	○平成27年度については、次の2大会を伊那市で開催することができました。 ・第20回全日本レディースソフトボール大会 47チーム 参加者数 約1,050名 (平成27年9月12日(土)～14日(月)) ・第30回東日本大学ソフトボール選手権大会 男女49チーム 参加者数 約1,350名 (平成27年8月8日(土)～10日(月)) また、4月に開催されている伊那市ソフトボール協会主催の「全国ハイシニア信州伊那さくら大会」は4回目を数え、スーパーハイシニアの部を加え全国から大勢の参加があります。 ○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。			
事業の課題及び方向性	【課題】全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。 【方向性】引き続き全国規模の大会誘致と式典の簡素化など経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催、指導者の育成など競技人口の拡大ができるよう、ソフトボール協会を支援します。			
自己評価	a			

事務事業	No.51	体育施設の整備	H27年度決算額	61,845千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	体育施設等の管理及び整備			
達成状況	平成27年度事業 (1)伊那市陸上競技場公認更新改修工事(ウレタンオーバーレイ工 337.2㎡ほか) (2)伊那市陸上競技場公認更新備品購入 (円盤・ハンマー投げ囲い、デジタルフィールド制限タイマーほか) (3)伊那市武道館柔道場畳替工事(全日本柔道連盟公認品 457.8㎡) (4)高遠文化体育館耐震診断業務委託 (5)伊那市陸上競技場用器具保守点検業務委託(走高跳・棒高跳用マットウレタン交換) (6)伊那市陸上競技場第2種公認検定委託料			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化施設の整備及び施設の統廃合を順次進める必要があります。 【方向性】平成26年度に策定された「体育施設のあり方に関する基本的な考え方」を受け、市としての体育施設のあり方について議論を深めることとします。			
自己評価	a			



春の高校伊那駅伝



陸上競技場公認更新備品購入(円盤・ハンマー投げ囲い)

【参考】

平成28年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

No.1-2	キャリア教育の推進	→b
少子高齢化・人口減少社会を迎え、郷土愛と成長への憧れを育むための施策が一層求められているため。		

2 廃止事業

No.3 1	子ども週末活動の支援	b→b
平成26年度で市事業委託終了のため。		
旧No.4 6	考古資料館	b→
平成26年度から公開施設としての利用を廃止しているため。		

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.4 3	史跡高遠城址	b→c
国庫補助要望が不採択となり、事業に着手できなかったため。		
No.5 0	ソフトボールの振興	b→a
平成26年度は長野県ソフトボール協会を通じて全国規模の大会が招致できず、開催できなかったためbとしたが、平成27年度は全国規模の大会が2つ開催できたため。		

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会の自己評価について

「妥当」である。

【理由】 さまざまな観点を持ち多様な取り組みを行い、一定以上の成果を上げていると考える。
評価分類項目、内容共に適切である。

2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 大変多くの取り組みがなされ、しかも一定以上の成果が上がっていることに対して、高く評価したいと考える。市長がある会で「伊那市を愛しているという点では誰にも負けない。」とのあいさつをしていたが、教育行政に関わる皆さんも「伊那市を愛する」という想いの中で取り組んでいる結果であると思う。今後も大いに期待している。
- (2) 生涯学習、文化の振興という面においては、次世代に対する働きかけや企画を重視し、若者が伊那市に対する愛着を増していくような取り組みが多く、期待が大きい。一方で、「千両千両井月さんまつり」の「方向性」に示されているように、いくつかの取り組みについては、民間主導型、あるいは諸団体主導型の形式に順次移行することで、市の負担軽減と民間の活力増大という面を導き出せるのではないかとこの印象も持つ。
- (3) 学校教育、生涯学習・芸術文化、文化財保護、スポーツ等、それぞれの分野で充実した取り組みがなされている。今後も各分野において、年度ごと掲げた課題、方向性を検証、分析のうえ、更なる教育行政の充実に取り組んでいただきたい。
- (4) 教育環境の整備は有利な財源確保に努め、安全な教育環境の早期整備と共に情報教育の推進に努めていただきたい。
- (5) 心の教育と支援体制の整備は、今後も更に重要な政策となると思われる。学校、医療機関、子ども相談室等関係機関の連携により、児童・生徒、家庭への継続した支援体制を図っていただきたい。
- (6) 生涯学習、芸術文化の振興では、幅広い年齢層の期待や要望に沿った学習の場の提供と、そこで培われた学びが地域での活動に活かされるよう期待する。
- (7) 公民館活動は、時代の変化に対応した講座や教室の開催に努めると共に、長期開催講座は受講生自ら運営するクラブに移行する等見極めを図ることが必要と思われる。
- (8) 家庭では子ども中心の生活が営まれることが多いのに対し、学校は、子どもがクラスの中の一人として仲間と協力し合い、大きなことを行うことで自立する場である。さらに、信州型コミュニティ・スクールを地域の協力を得、身近な素材を活用し進めることで、子どもが地域の一員として自立していきけるように学んでほしい。
- (9) 中学3年の息子は、県教育委員会でも話題になった「運動部活の朝練」を、バスケットボールチームで3年間やり遂げ、勉強と両立することで心身共に鍛えてもらった。顧問の先生への負担など賛否両論あると思うが、充実した中学生生活を送れたことに感謝している。

- (10) 多岐にわたる事業の詳細を把握しきれていないが、私立高等学校として協力できることに対しては積極的に取り組んでいくので要請いただければありがたい。ますます少子化が進む中、公立高校の再編問題も上がってくると思う。その中で、私学としてどのような取り組みをしていくのかが大きな課題となる。今後とも指導と支援をお願いしたい。
- (11) 現在、上伊那PTAではネット問題に取り組んでおり、家庭でのインターネット端末利用のガイドラインを作成中です。教育委員会では、本年7月から一般社団法人セーフティネット総合研究所に委託し「ネットトラブル相談事業」を開始したが、上伊那PTAの取り組みにも指導・協力をお願いしたい。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1-1	総合的な学習	地域の自然や歴史を通して、自ら学び、自ら考える学習が図られている。また、信州型コミュニティ・スクール事業も定着してきており、地域に開かれた学校づくりにより教育の質的向上が図られるよう期待する。
1-2	キャリア教育の推進	高校卒業後の進路を考える際、特に中学校での職場体験学習が参考になっているケースが多い。地域産業の推進という面からも有効な取り組みであると考え。一方、「方向性」で示されている通り、一貫性、継続性の確保という面から、高校を交えて検討する必要があると考え。
2	学力向上	家庭の教育力格差と相まって、学力（特に基礎学力）の格差が広がってきているという印象を持っている。基礎学力の定着に対して今後も充実を図っていただくとともに、高校との連携を構築して方策の検討をお願いしたい。 学力検査などの結果分析に基づき、自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るための授業改善に努めている。「早寝、早起き、朝ご飯、朝読書」、「ノーテレビ・ノーゲーム」などの取り組みは、家庭や地域との連携が不可欠であり、これらの取り組みにより家庭学習の充実が図られることを期待する。
4	読書活動の推進	「ノーテレビ・ノーゲーム」の取り組みに合わせ、読書の習慣を身につけることにより、読書を通しての人的成長や、自ら考え自ら学ぶ姿勢へと発展できるよう期待する。
5	特別支援教育	特別支援が必要な子供が増えていることから、体制の強化と支援の充実が求められている。幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握に努め、関係機関とも連携を図り、子どもが持てる力を最大限に発揮できるよう支援体制の整備に努めていただきたい。
6	外国籍児童生徒の支援	日本語支援を必要とする外国籍児童・生徒が一定数いる中、継続的な支援はさまざまな困難を抱えていることと推測する。その中で一定の成果が出ていることは評価に価する。その支援が、高校入学後もある程度継続することを希望する。
7	給食運営	学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」の継続と地元産食材の共同購入等により経費の削減に努めると共に、美味しく安心・安全な給食の提供に努めていただきたい。
9	学校備品整備・情報教育	新学習指導要領に対応した備品整備について、段階的かつ効果的に進んでいるように感じる。一方、情報教育（特にモラルの面）については、さらなる取り組みが必要であると感じている。家庭の理解や協力を取り連携していく取り組みを期待する。
10-2	私立高等学校支援	少子化に加えて不透明な経済状況の中、私学経営はますます困難をきたしていくことを懸念している。多様な生徒を受け入れているという点も理解いただき、継続した支援をお願いしたい。

No.	事務事業等	意見等
13	子育て教育支援相談 家庭児童相談	家庭環境の多様化に伴い、子どもたちが抱える顕在化しない問題が増加してきていると感じている。貧困スパイラルの防止という面からもより一層の事業拡大、多様化を期待する。さらに、高校へつなぐという面についても強化を期待する。 相談件数の増加や相談内容の多様化、緊急性が増えている現状から、適切かつ迅速な対応が求められている。関係機関との連携体制の強化により子供の健やかな成長が確保されるよう支援体制の強化に期待する。
17	市民大学・市民大学 大学院	市民の自然や文化、歴史等幅広い分野での学習意欲を感じる。今後も受講生の学習要求に応えた講座の開催と共に地域のリーダーとなる人材の育成に努めていただきたい。
23	公民館事業	地域住民の身近な公民館として、住民の要望に応えた生涯学習の推進に取り組んでいただきたい。
29	学校人権同和教育	春富中と西箕輪中の「人権宣言」が紹介されている。 他の中学校にも人権宣言の制定を推奨してはいかかが。
35- 1 ～ 39	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭、い〜な音楽祭、市民音楽祭それぞれに特色ある音楽祭として定着している。 質の高い芸術文化の普及に努めていただきたい。
47 ～ 51	スポーツライフの 実現	児童・生徒のスポーツ離れ、体力の低下が課題となっている。これらの課題解消のための方策が求められる。 「総合型地域スポーツクラブ」「スポーツ少年団」等の検証により、地域社会における児童・生徒のスポーツへの参加を図っていただきたい。 スポーツのまち伊那市として「ソフトボール」「春の高校駅伝」などの一層の充実に努めると共に市民のスポーツへの興味や関心を高める良い機会としてPRに努めていただきたい。

平成28年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那西高等学校長

出野 憲司

中部PTA連合会会長

伊東 大輔

伊那市社会教育委員会議

中村 幸子